

みずほマーケット・トピック(2021年3月5日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

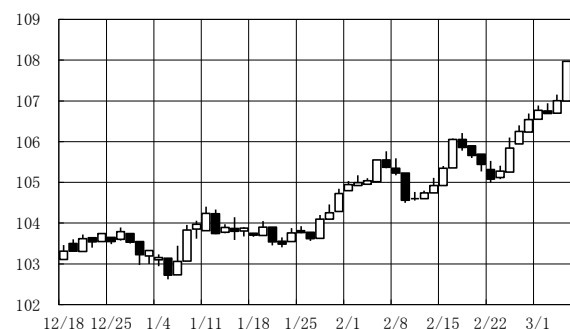
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は断続的に年初来高値を更新する展開。週初1日、106円台半ばでオープンしたドル/円は、仲値にかけて一時週安値となる106.37円をつけるも、米2月ISM製造業景気指数の良好な結果や米バーキン・リッチモンド連銀総裁の金利上昇を容認する発言を受けて、米金利の騰勢が強まると106円台後半までじりじりと上昇した。2日にかけても、ドル買い地合いが継続する中、107円近辺まで上伸。しかしその後は、特段大きな材料が無く米金利の上昇が一服して、ドル/円は、106円台後半で上値の重い推移となった。3日は、米長期金利や欧州株価の堅調推移を背景に、ドル/円は一時107円を上抜けた。4日には、円売り優勢地合いの中、ドル/円は107円台前半で底堅く推移。その後パウエルFRB議長の米金利上昇を容認との見方が示唆されると、中長期金利が急伸する展開となって、ドル/円は107.98円まで値を上げた。本日のドル/円も年初来高値を更新する場面も見られ、107円台後半で取引されている。
- 今週のユーロ/ドル相場は軟調推移。週初1日、1.20台後半でオープンしたユーロ/ドルは、1.21台前半まで上昇する場面も見られたが、ドル買い優勢地合いに1.20台前半まで下落した。2日は、デギンドスECB副総裁は利回りが調達環境を悪化させているかを見極める必要があると話したことを受けて、ユーロ売りが強まり、他通貨に対してもドルの選好が引き続き堅調となった中、ユーロ/ドルは、1.19台後半まで値を下げた。その後は、米金利が低下する動きにドル売りが強まると、ユーロ/ドルは、1.20台後半まで回復した。3日には、ECBの関係筋の話として「債券利回りで劇的な行動の必要はないとの見方」との話が伝わると、ユーロ/ドルは一時週高値となる1.2113をつけたが、ドル買いが強まる展開に1.20台前半まで反落。4日は、ユーロ売り優勢地合いの中、パウエルFRB議長の米金利上昇を容認する内容の発言を受けドル買いが強まると、ユーロ/ドルは続落し1.20を下抜けた。本日のユーロ/ドルは、一時週安値を更新する場面も見られ、1.19台半ばで上値の重い推移となっている。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		2/26(Fri)	3/1(Mon)	3/2(Tue)	3/3(Wed)	3/4(Thu)
ドル/円	東京9:00	106.39	106.48	106.85	106.76	107.06
	High	106.69	106.89	106.95	107.16	107.98
	Low	105.85	106.37	106.68	106.70	106.97
	NY 17:00	106.54	106.77	106.69	107.01	107.97
ユーロ/ドル	東京9:00	1.2159	1.2091	1.2049	1.2085	1.2049
	High	1.2185	1.2101	1.2094	1.2113	1.2065
	Low	1.2063	1.2028	1.1992	1.2043	1.1962
	NY 17:00	1.2070	1.2049	1.2091	1.2062	1.1973
ユーロ/円	東京9:00	129.35	128.73	128.70	129.02	128.99
	High	129.50	128.93	129.06	129.46	129.63
	Low	128.57	128.25	128.20	128.76	128.92
	NY 17:00	128.63	128.60	129.03	129.06	129.28
日経平均株価		28,966.01	29,663.50	29,408.17	29,559.10	28,930.11
TOPIX		1,864.49	1,902.48	1,894.85	1,904.54	1,884.74
NYダウ工業株30種平均		30,932.37	31,535.51	31,391.52	31,270.09	30,924.14
NASDAQ		13,192.35	13,588.83	13,358.79	12,997.75	12,723.47
日本10年債		0.16%	0.15%	0.12%	0.12%	0.13%
米国10年債		1.40%	1.42%	1.39%	1.48%	1.56%
原油価格(WTI)		61.50	60.64	59.75	61.28	63.83
金(NY)		1,728.80	1,723.00	1,733.60	1,715.80	1,700.70

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、今晚 5 日(金)に 2 月雇用統計が発表される。前回 1 月の非農業部門雇用者数は+4.9 万人(前月比、以下同様)と市場予想(+10.5 万人)を下回る軟調な推移となった。民間部門雇用者数は+0.6 万人、政府部門雇用者数は+4.3 万人の結果となった。民間部門雇用者数に関して内訳をみると、財部門は▲0.4 万人と昨年 4 月以降では初めてマイナスとなった。製造業や建設業に減少が確認されているが、足許の業況は堅調に推移しており、むしろコロナ禍での生産ラインの停止や人材不足が影響したものと考えられている。また、サービス業の雇用は+1.0 万人と増加に転じたが、比較的堅調に推移していた医療・福祉、小売業で雇用が減少した。一方、大きく活動制限の影響を受けていた余暇・娯楽部門は▲6.1 万人と 12 月の▲53.6 万人から大きく下げ幅が縮小した。また、失業率は 6.3%と 12 月から 0.4%ポイントの改善。労働参加率(労働力人口÷生産年齢人口)は、61.4%と 0.1%ポイント悪化した。失業者の内訳について、恒久的な失業者数が+13.3 万人と再度増加に転じた。平均賃金は+0.2%と大きな変化はなかった。2 月の結果に関してブルームバーグの事前予想では、非農業部門雇用者増加数を+20 万人の増加を見込む。失業率については、6.3%と横ばいの予想となっている。
- 欧州では 11 日(木)に ECB 政策理事会の開催を控える。前回 1 月会合では金融政策は現状維持となった。声明文では昨年末に決定したパンデミック緊急購入プログラム(PEPP)の拡大・延長(22 年 3 月末まで)に関して、必ずしも枠をすべて使い切る必要はなく、逆に必要であれば増枠も可能という考えを明記した。こうした中、今回会合では域内の緩やかな資金調達環境を維持する観点から今後の PEPP の運用方法が争点となるとみられる。ECB は各国銀行の貸出対応の厳格化をはじめ、域内での与信環境への問題意識を度々強調している。特に先月の米金利の騰勢を受けて、欧州各国の金利にも上昇圧力が出てきている点を ECB 関係者は注視している。今週、ビルワットダロー仏中銀総裁が最近の債券利回り上昇について正当化できない部分があると述べたほか、パネッタ ECB 専務理事は債券利回りの上昇を抑えるため、買取額の増額や PEPP の拡大を検討すべきと具体的な提言もしている。片や、バートマン独中銀総裁は足許の金利上昇を楽観視する発言をしており、メンバー間での見解の違いも見られている。

	本 邦	海 外
3 月 5 日(金)	――	・米 2 月雇用統計
8 日(月)	・1 月経常収支	・ユーロ圏 3 月センチックス投資家信頼感指数
9 日(火)	・10～12 月期 GDP(確報) ・2 月工作機械受注(速報)	・ユーロ圏 10～12 月期 GDP(確報)
10 日(水)	――	・米 2 月 CPI
11 日(木)	・2 月国内企業物価指数 ・20 年物国債入札	・ユーロ圏 ECB 政策理事会
12 日(金)	――	・米 3 月ミシガン大学消費者マインド(速報) ・ユーロ圏 1 月鉱工業生産 ・英 1 月 GDP

【当面の主要行事日程(2021 年 3 月～)】

ECB 政策理事会 (3 月 11 日、4 月 22 日、6 月 10 日)

FOMC (3 月 16～17 日、4 月 27～28 日、6 月 15～16 日)

日銀金融政策決定会合 (3 月 18～19 日、4 月 26～27 日、6 月 17～18 日)

市場営業部・金融市場部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2021年3月4日	英ポンド急騰の背景～経済対策、ワクチン、成長率～
2021年3月3日	米金利に連れたユーロ圏金利～ECBは容認できず～
2021年3月2日	「鏡に映った自分」に惑うFRB～前提が変わった2か月間～
2021年2月26日	週末版(米10年金利の1.60%台到達を受けて～パウエルショック～)
2021年2月25日	マネーサプライを見てインフレ語れず～パウエル公聴会～
2021年2月22日	「民間部門の貯蓄過剰」は今後の「マグマ」なのか？
2021年2月19日	週末版(ECB政策理事会議事要旨を受けて～明記された「ユーロ高反転」～)
2021年2月18日	動き始めた米実質金利への懸念～10年1.3%到達を受けて～
2021年2月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年1月分)
	アフターコロナを予感させる米国のインフレ論争
2021年2月15日	ドラギ新首相誕生について～「挙国一致」と「寄せ集め」の狭間～
2021年2月12日	週末版(下がらない実質金利とイーランドスプレッドの現状～やはり気になる「米10年金利1.5%」という節目～)
2021年2月9日	円相場の需給環境～貿易均衡面という新常态～
2021年2月8日	試される「双循環」～人民元の上昇は容認されるか～
2021年2月5日	週末版(なぜユーロ圏消費者物価指数(HICP)は急騰したのか？～過性のまやかし～)
2021年2月4日	最悪の落ち込みとなった2020年のユーロ圏経済
2021年2月2日	イスラエルリスクをどう考えるか～世界の実験室～
2021年1月29日	週末版(マイナス金利深掘りを示唆し始めたECB～その理由はどこに？～)
2021年1月27日	米10年金利はどこまで上がりそうか？
2021年1月25日	最悪となった2020年のユーロ圏物価情勢
2021年1月22日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「次の一手」はYCC？～)
2021年1月20日	「強いドル」とは言わなかったイエレン新財務長官
2021年1月19日	直接投資減少で緩むドル/円相場の「地盤」
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年12月分)
2021年1月18日	金融市場はバイデン新政権をどう見ているのか？
2021年1月15日	週末版(ECB政策理事会議事要旨～ラガルド流が試されるのは昨年よりも今年～)
2021年1月13日	実質金利の上昇はどこまで容認されそうか？
2021年1月12日	米12月雇用統計の読み方～ヘッドラインに引きずられずに～
2021年1月8日	週末版(早速乱れ始めたFRBのフォワードガイダンス～いつも通りの済し崩し～)
2021年1月7日	緊急事態宣言の再発出で強まる貯蓄という正義
2021年1月5日	遂に2%に到達した米国のインフレ期待
2021年1月4日	低金利が招く格差拡大・為替の静寂・株の喧騒
2020年12月28日	英EU「新たな関係」合意を巡るQ&A
2020年12月25日	週末版
2020年12月24日	やっぱり狭かったドル/円の値幅～3つの背景～
2020年12月23日	期待指数に薄日も差し込んできた米消費者マインド
2020年12月21日	2021年も続く「金融市場と実体経済の乖離」
2020年12月18日	週末版(為替政策報告書を受けて～垣間見える「まだ、ドル高」の本音～)
2020年12月17日	FOMCを終えて～約束された「金利差なき世界」～
2020年12月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年11月分)
2020年12月15日	イエレンダッシュボードで見る米雇用の現状
2020年12月14日	ドル安の裏側には何があるのか？～元、ユーロの存在～
2020年12月11日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「中途半端」でユーロ高抑制できず～)
2020年12月10日	「イエレン次期財務長官と為替」というテーマ
2020年12月8日	前門のブレグジット、後門の次年度予算
2020年12月7日	米労働市場の抱える怖さ～長期失業者の増加～
2020年12月4日	週末版(FRBが直面するインフレ期待上昇～2021年の政策運営に影響必至か？～)
2020年12月2日	過去に類例のない物価低迷に直面するユーロ圏
2020年12月1日	実質金利とドル/円相場にまつわる議論について
2020年11月27日	週末版(「円高でなくドル安」という葛藤～日本の政治・経済にとってのリスク～)
2020年11月25日	拡大し続ける実体経済と金融市場の距離感
2020年11月24日	ECBの振りかざす「2段階アプローチ」とは
2020年11月20日	週末版(「円高ではなくドル安」という葛藤～日本の政治・経済にとってのリスク～)
2020年11月18日	側近退場後のジョンソン政権とブレグジット交渉の行方
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年10月分)
2020年11月17日	日米欧三極の成長率～急落と急騰の先にあるもの～
2020年11月16日	ワクチン報道はゲームチェンジャーになったのか？
2020年11月13日	週末版
2020年11月12日	結局、解消されていないユーロ高～「量」の無力～
2020年11月11日	円高・ドル安予想を修正する必要があるのか？
2020年11月10日	アフターコロナ&アフターランプに沸く金融市場の整理
2020年11月6日	週末版
2020年10月30日	週末版(ECB政策理事会を終えて～ラガルド就任、1周年～)
2020年10月29日	ECB政策理事会プレビュー～求められる緩和仕草～
2020年10月27日	中銀は環境に貢献すべきか？～ESG全盛の中で～
2020年10月26日	解せないバイデントレード～米金利とドルの逆相関～
2020年10月23日	週末版(2020年、どのような通貨が評価されているのか？～年初来の対ドル変化率を振り返って～)
2020年10月22日	続・ブレグジット Q&A～首脳会議で深まった「溝」～
2020年10月20日	IMF秋季世界経済見通し改定の見るリスクシナリオ
2020年10月19日	過去最悪の米財政赤字とIMF「財政報告」
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年9月分)
2020年10月16日	週末版(この状況でも底堅いユーロ相場～IMF最新見通しでも欧米成長率格差は過去最大～)
2020年10月15日	「ミニ合意」騒動とEU首脳会議の行方
2020年10月14日	元高の背景を整理～バイデントレードに加え金利と需給～
2020年10月13日	米大統領選挙に対する市場思惑をどう整理すべきか？
2020年10月9日	週末版(ECB政策理事会議事要旨(9月8～9日開催分)～露骨なユーロ高けん制の実情～)
2020年10月8日	深刻さを帯びてきたユーロ圏の物価情勢
2020年10月6日	ブレグジットQ&A～現状と展望のための6つの論点～
2020年10月5日	バイデントレードとは何か？～元買い、ペソ買い、株売り～
2020年10月2日	週末版(日銀短観(9月調査)を受けて～業況改善の裏で進む業績悪化と不安な設備投資～)
2020年10月1日	米株高と企業収益、そして恒常所得の関係
2020年9月29日	日米欧で最大になったECBバランスシート
2020年9月28日	「民間部門の貯蓄過剰」で低体温化する経済
2020年9月25日	週末版
2020年9月24日	為替市場を規定するユーロの値動き
2020年9月23日	越冬リスクという論点～安全資産「金」の薄さ～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年8月分)
2020年9月18日	週末版(通貨高に苦しむECB～通貨政策化する金融政策～)
2020年9月17日	FOMCを終えて～日銀に似てきた情報発信